

新型コロナウイルス感染症状況下における看護系大学の看護支援活動の実態

一般社団法人日本看護系大学協議会

- I. 目的：**看護系大学が新型コロナウイルス感染症に係る健康危機に際し、教育の継続と並行してどのように地域の看護を支援したかの実態を把握することを目的に、2020年度および2021年度における看護系大学（医療職の教員・大学院生）の医療機関等への支援状況を調査した。

II. 調査方法

- 対象：2021年度日本看護系大学協議会会員校 290 大学
- データ収集方法：エクセルフォームを用いたのメール調査
- 調査内容：①大学の医療職の教員総数（2020年度、2021年度）
②年度ごとの支援活動の実施状況
③大学教員（医療職）・大学院生（看護職）が行った支援内容と支援を行った人数
注：人数は支援内容ごとの参加人数であり、延べ人数ではない
④感染症専門家（感染症の研究者、専門看護師等）による支援件数
⑤支援状況に関する自由記述（任意）
- 調査期間：2022年4月28日（木）～5月19日（木）

III. 調査結果

- 回答校数：224校（回収率：77.2%）
- 回答大学の医療職の教員総数：（2020年度）7,868人、（2021年度）7,912人

3. 年度ごとの支援活動の実施状況

表1 年度ごとの支援活動の実施大学数（n=224）

年度ごとの支援状況	大学数(%)
2020年度にのみ支援協力した	1 (0.4%)
2021年度にのみ支援協力した	88 (39.3%)
2020年度・2021年度ともに支援協力した	128 (57.1%)
支援を行っていない、把握していない	7 (3.1%)
計	224 (100.0%)

表1に示すように2020年度2021年度を通して、224大学中217大学（96.9%）が地域において看護活動の支援を行っていた。2020年度は129大学、2021年度は216大学であった。

4. 大学教員（医療職）・大学院生が行った支援内容と支援を行った人数

2020年度と2021年度を別個に集計していた大学と合算で集計をしていた大学があったため、表2-1は年度別、表2-2は両年度の合計の結果を示す。

表 2-1 支援内容ごとの実施大学数と参加人数（2020 年度、2021 年度ごとの回答）

	2020 年度				2021 年度			
	教 員		大学院生		教 員		大学院生	
	大学数 (校)	教員数 (人)	大学数 (校)	院生数 (人)	大学数 (校)	教員数 (人)	大学数 (校)	院生数 (人)
職域接種の実施主体	10	53	2	2	76	1628	16	61
職域接種への協力	19	144	4	9	103	1609	19	85
地域（市区町村）が行う ワクチン接種への協力	14	52	4	7	98	1227	24	110
地域（市区町村）以外が行 うワクチン接種への協力	2	63	0	0	11	270	2	7
ワクチン接種に係る研修	0	0	0	0	5	28	0	0
ワクチン接種 小計	45	312	10	18	293	4790	61	263
保健所への支援	76	405	11	26	113	933	20	93
病院への応援	37	354	11	24	33	330	12	26
軽症者宿泊施設への協力	24	117	9	11	28	133	15	24
自治体への支援・連携	9	41	1	2	15	48	2	3
重点医療機関の設立・運営	1	1	1	1	2	46	3	11
看護師・保健師への支援	4	7	0	0	7	37	1	1
医療関係機関への支援	7	21	2	2	8	18	5	9
相談窓口業務	9	51	2	9	5	17	1	1
高齢者施設・障害者施設・ 保育施設等への支援	12	20	2	2	8	14	1	1
地域住民への支援	5	22	0	0	6	13	1	2
PCR 検査に係る支援	2	12	2	2	2	12	0	0
民間企業・団体への支援	3	3	1	1	4	15	1	1
その他支援*	3	3	0	0	4	23	0	0
計	237	1369	52	98	528	6429	123	435

注) 上記に含まれていない1大学は教員・大学院生・医療職と区別していない合算での回答であったため以下に記す。

2020 年度：保健所への支援 119、軽症者宿泊施設への協力 123、その他(PCR 検査センターへの派遣)311

2021 年度：地域（市区町村）が行う ワクチン接種への協力 464、職域接種への協力 250、保健所への支援 7、
軽症者宿泊施設への協力 376、その他(PCR 検査センターへの派遣)50

表 2-1 「その他支援*」の支援内容（ ）内は人数

2020 年度

病院における対症療法に必要な看護技術講習開催 (1)

訪問看護ステーションにおける新型コロナウイルス感染症対策に関する実地研修担当 (1)

老健施設における新型コロナ感染対策における実地研修の講師担当 (1)

2021 年度

オリンピック・パラリンピックへの支援 (20)

厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部事務局参与 (1)

厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部事務局業務 (1)

新型コロナウイルス感染症対策委員会委員 (1)

表 2-2 支援内容ごとの実施大学数と参加人数 (2020・2021 年度合算の回答)

	2020・2021 年度			
	教 員		大学院生	
	大学数 (校)	教員数 (人)	大学数 (校)	院生数 (人)
職域接種の実施主体	5	70	1	2
保健所への支援	6	35	3	5
職域接種への協力	4	28	1	4
軽症者宿泊施設への協力	3	9	1	1
地域（市区町村）が行う ワクチン接種への協力	2	6	4	8
病院への応援	1	1	3	4
重点医療機関の設立・運営	0	0	0	0
その他支援	2	5	1	3
計	23	154	14	27

看護系大学の教員と大学院生はさまざまな支援に加わっていた。大学数も参加人数も 2020 年度より 2021 年度が増えていた。

支援内容で最も多かったのはワクチン接種への協力、次いで保健所への支援であった。2021 年度のワクチン接種にかかる支援に、4,790 人の教員が参加しており、これは当該年度の医療職教員数 7,912 人の 60.5%にあたる。保健所の支援は、2020 年度 76 大学、405 人から 2021 年度 113 大学、933 人に増加、院生も 21 年度 93 名と参加者が倍増していた。尚、本調査では支援延べ人数は算出してない。

5. 支援内容の人数のうち感染症専門家(感染症の研究者、専門看護師等)による支援件数

表 3 支援内容ごとの感染症専門家による支援件数 (表 2-1 のうち)

	2020 年度				2021 年度			
	教 員		大学院生		教 員		大学院生	
	大学数 (校)	支援数 (件)	大学数 (校)	支援数 (件)	大学数 (校)	支援数 (件)	大学数 (校)	支援数 (件)
地域（市区町村）が行う ワクチン接種への協力	1	1	0	0	7	80	2	24
職域接種の実施主体	0	0	1	1	8	13	2	6

職域接種への協力	2	30	0	0	6	59	1	11
保健所への支援	6	43	1	12	4	18	1	22
軽症者宿泊施設への協力	1	1	1	6	0	0	1	2
病院への応援	4	29	2	114	3	21	3	37
重点医療機関の設立・運営	0	0	1	1	0	0	1	1
その他支援	24	293	3	41	27	224	4	47
計	38	397	9	175	55	415	24	150

注) 上記に含まれていない2大学は年度ごとに区別をしていない合算での回答であったため以下に記す。

教員：感染症専門家による支援件数3（軽症者宿泊施設への協力1、不明2）

感染症専門家による支援は、2020年度397件、2021年415件であり、感染拡大の当初から支援活動を行っていたことがわかった。しかし、「その他」が非常に多く、今回の調査ではその内容が不明のため、今後の感染看護学、あるいは看護教育の検討にはこの内容の精査が必要であろう。

6. 自由記述に記載された具体的支援内容（抜粋）

【ワクチン接種に係る支援】

- ・ 保健所保健師を対象としたワクチン接種（筋肉注射）の実技研修開催。
- ・ ワクチン接種開始に先立ち、医療従事者向けの先行接種に協力した。
- ・ 他の一般大学の要請を受け、合同で職域接種を実施（延べ8000名を2回）。
- ・ 看護学部生約100名を市町村が行うワクチン接種会場へボランティアとして派遣し、看護師免許をもつ教員4名がワクチン接種会場での外回り支援を学生とともに実施した。

【病院等への支援】

- ・ 病院への備品貸出：重点医療機関設立のために看護師のワクチン接種技術訓練（筋肉注射）が急務となったとき、上腕モデル（シミュレーター）貸借の依頼があった。看護師支援に向け、上腕モデルを貸し出した。
- ・ 病院への支援についてはのべ29日間、介護施設感染対策ラウンドにはのべ94施設の訪問をした。上記以外にも、学会・研究会・オンライン講座での講演、情報交換会での話題提供、施設のスタッフセミナーでの講演、研修会の講師など9件の協力をおこなった。
- ・ 保健所業務の応援においては、PCR陽性者へのファーストタッチの支援や集団発生している高齢者施設への支援を多数実施。

【マスク等の提供】

- ・ 大学で備蓄していたマスク、消毒剤、手袋等の消耗品を実習施設や地域、医療機関に提供した。
- ・ 学生・教職員有志による軽症者療養施設の退所者へ手づくりマスクの作成・寄贈
- ・ 職員有志による手づくりフェイスシールドの開発、作成。軽症者施設への提供。
- ・ ボランティア約50名を集め、医療機関で不足するエプロンをゴミ袋で作成し、約30機関に無償提供した。

【東京オリンピック／パラリンピックへの支援】

- ・ 東京オリンピック／パラリンピック 選手村総合診療所 濃厚接触者検査エリアにおいて病院の医療職とともに対応。

【官公庁・公的組織等との連携・支援】

- ・ 厚生労働省の参与として、地域保健支援に協力した。
- ・ 地元医師会の支援のもと、産婦人科対象とした PPE 及び新型コロナウイルス感染予防についての動画を作成して YOUTUBE アップした。
- ・ 感染看護学分野の修了生 1 名が医師会から依頼があり、本学構内を提供して実施されたドライブスルー方式 PCR 検査業務を実施
- ・ 大規模接種センターへ、「2020 年度は約 6 か月間、1 日 2 名を派遣し、総計約 360 回」、「2021 年度は約 10 か月間、1 日 3 名を派遣し、総計約 900 回」の支援を行った。

以下は今回の調査範囲外の大学関係者の支援についての記述である。

【学生および医療職でない職員による支援】

- ・ 保健所支援の学生ボランティアの希望を募り、学生 48 人の保健所ボランティアを派遣した。
- ・ 医療職（医療専門職）ではない疫学専門教員による IHEAT での積極的疫学調査の対応（1 名）。
- ・ 地域が行うワクチン接種への協力（保健管理室職員）：1 人、地域が行うワクチン接種への協力（事務職員）：11 人
- ・ 非医療職の教員において、介護施設・訪問看護ステーションへの支援（フェイスシールドの作成と提供（30 カ所 1000 セット））、保健所・大学への支援（ワクチン接種練習モデルの提供）を行った。
- ・ 教務補佐員（非常勤）2 名が接種に協力した。

IV. まとめ

全国の看護系の大学では、2020 年度、2021 年度に渡り、厚生労働省からの支援要請もあった中で、各地域の感染状況により、多くの教員や院生がさまざまな形で看護支援を実施してきたことが、この調査から明らかになった。この背景には、217 大学において各大学が支援に参加する判断をしたこと、実際に支援に参加する者がいる一方で、学内でその分の仕事をカバーする者がいたことがある。

この調査は参加人数のみであり、一人が何回いったか、何時間を使ったかは調査していない。これを算出したならば、莫大な数値になるものと推測できる。今般の新型コロナウイルス感染症の拡大に際し、遠隔授業や新たな実習の構築による教育を継続させながら、看護学教育に携わる医療職教員、大学院生がこれだけの活動をしたことは、看護系大学が人材育成のみならず、地域における看護活動のリソースとしても意義あることを示した。

今回の活動は、新型コロナウイルス感染症の拡大という健康危機、医療崩壊状況への一時的な対応であり、今回できたからといってこれを繰り返すのではいけない。これからの感染症と共にある社会における健康危機状況を想定して、支援体制や教育内容を準備する必要もまた、示されたものと考えている。繰り返し指摘されているように、平時のネットワークが危機において力を発揮することから、看護系大学が平時に地域の医療、行政との連携を作っていくことは、これまで以上に大切であり、危機におけるリソースとして効率的に役割を担えることにつながるだろう。

また、感染症看護にかかる専門家は、1 年目から支援活動を行っていた。専門家の育成は大学の役割として強化すべきであろう。

年度の初めの多忙な時期に、本調査にご協力いただいた会員校の皆さまに、御礼申し上げます。